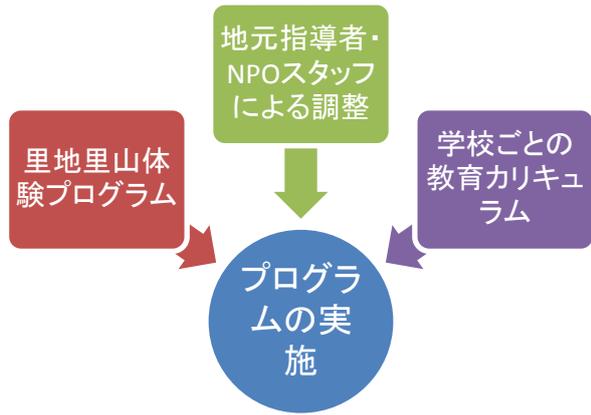
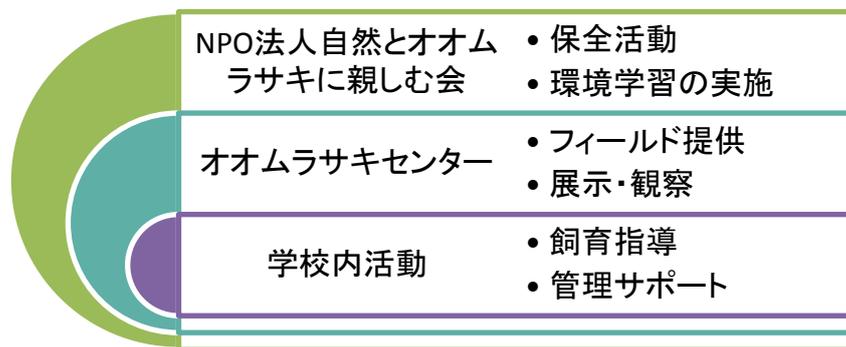


里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	ふれあい活動による里地里山生物への理解促進
手法名	学校等のカリキュラムと連携した生き物ふれあい活動の促進
主体	NPO法人くりやま、オオムラサキセンター等
背景(地域の課題)	<p>里地里山保全活動によって、地域環境を活かした多様なふれあい活動が創出され実施されるようになってきている。それらの活動は子どもたち等への環境教育の一環として、大変効果的だと考えられるが、実際に活動に参画してもらうためには学校や公民館をはじめとした連携先主体とのカリキュラムやプログラムとの連携を考慮した取り組みが必要とされる。</p>
手法／方策の詳細	<p>(1)学校教育へのプログラム提供 保全活用フィールドにおける体験活動を、学校教育の授業カリキュラムとのかかわりに配慮して整理しプログラム化。教員用の指導手引も整備して、学校ごとの教育・指導のねらいに応じてプログラムを組み合わせ提供している(図1)。ホテル観察、魚捕りなどの体験、体験によって捕獲した動植物による料理体験などの取り組みを行っている(図2, 3)。 また、関連団体とも連携しながら地元指導者向けプログラムも実施しており、活動内容や指導方法のブラッシュアップを継続的に行っている(図4)。</p> <p>(2)学校、NPOと連携した保全活動 オオムラサキセンターでは、サポートクラブとして「自然とオオムラサキに親しむ会」(センター運営主体)が、地元小中学校と調査や保全活動等の環境学習を行っているとともに、継続的な環境のモニタリング調査にも取り組んでいる。また、各校での飼育指導やサポートを継続的に行い、オオムラサキとのふれあい活動を促進させている。</p>
手法・技術的視点	<p>(1)学校プログラムやカリキュラムに配慮した取り組み 学校教育におけるねらいや授業カリキュラムに配慮したプログラム整理を行うことで、教員等が利用しやすい内容を効果的に提示しており、連携の促進につながっている。</p> <p>(2)施設、NPO、学校が連携することによる保全と学習の両面からの取り組みの推進 施設(オオムラサキセンター)、NPO(自然とオオムラサキに親しむ会)、学校が連携することで、保全活動と学習活動、さらに調査や新たなプログラム開発など取り組みを多面的に展開させている。 地域のシンボルとなる生き物(オオムラサキ)ふれあい活動を契機としながら保全と活用の両面で成果を上げている点が着目される。</p>

<p>実行プロセス・運営体制のイメージ</p>	<p>学校教育と連携する活動プログラム集の整備と実施(NPO法人くりやま)</p>  <p>学校、NPO、施設が連携した生き物ふれあい活動(オオムラサキセンター)</p> 
<p>図・写真資料</p>	<p>図1</p>  <p>図2</p>  <p>図3</p>  <p>図4</p> 
<p>参考資料</p>	<p>里なび研修会in北海道パワーポイント資料(NPO法人くりやま) オオムラサキセンターウェブサイト http://oomurasaki.net/index.php</p>